

## 第5回 建設副産物リサイクル講演会

日時： 平成 19 年 6 月 11 日 ( 月 ) 15 : 00 ~ 17 : 30  
 場所： 大阪市中央公会堂 3 階小集会室  
 大阪市北区中之島 1-1-27



講演内容：

### 一．都市環境の創造と建設の役割

国立舞鶴工業高等専門学校 小野紘一 校長

#### 地球温暖化のシグナル

氷河の融解・棚氷の崩壊・永久凍土の融解・海面の上昇・海岸線の侵食・干ばつの拡大・局所的降雨量の増加・季節の異常・植物の異常・動物の生息地の変動 等

今後どうする・・・

- ・当面は比較的クリーンな天然ガスの利用を推進しなければならないであろう。
- ・クリーンエネルギー自動車、天然ガス・コジェネレーション、燃料電池などの需要サイドの対応も必要であろう。
- ・理想的なエネルギー、「水素の時代」をいかに早く達成させるかが人類の重要な役目であろう。

#### 土木と環境

##### \* クリーンエネルギーの利用促進

#### 水素の時代が来るまで

- ・地球温暖化の緩和のため、比較的クリーンな天然ガスによる中継ぎが必要
- ・シベリアには良質な天然ガスが大量にある
- ・このガスを中国、韓国、日本などで利用すると地球温暖化の緩和に役立つ。
- ・そのためには、シベリアから日本にまでガスパイプラインを建設する必要がある。
- ・このルートには永久凍土地盤が存在する

天然ガスの分布



##### \* 都市環境の創造

- ・電線類の地中化
- ・看板の工夫
- ・石畳 舗装
- ・都市の秩序 Cosmos and Chaos
- ・広場の維持と活用
- ・古き良き建造物の維持
- ・緑化、表面美化
- ・景観との調和
- ・トンネルと地下の利用
- ・新しい都市開発モデル(清溪川復旧プロジェクトの例)

電線の地下化と石畳設置の効果  
北新地



## 二. 21世紀のふつうの川

社団法人 淡水生物研究所 森下郁子 理事長



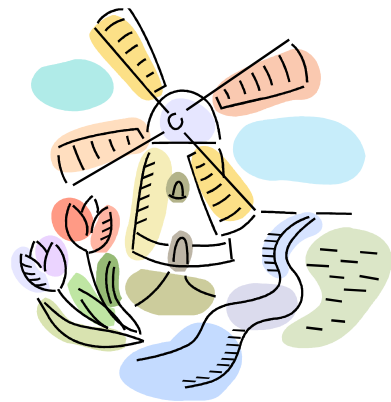
### 講演内容

- 1. 「コブナ釣りし小川」のフナがいなくなった理由
- 2. 砂にいるカマツカはどこで産卵するか
- 3. ワンドのタナゴがいなくなった理由
- 4. 魚とベントスのHIM(生息環境の評価)
- 5. オイカワは冬にアユの生息場をつくる

道路の拡張工事等の公共工事によって、本来その川にいたはずの魚がいなくなってきました。ダムは水を貯めると共に砂も貯めてしまうため、砂が下流に流れず、魚の産卵場所がなくなってきたのです。フナはほとんどが雌なので、産卵するためには、他種魚の雄の精子が必要ですが、川全体の魚が少なくなったために、フナの数も減ってしまったのです。日本には単一種で生きる魚はいないのです。

アユの川、サケの川、ホタルの川というように特殊な生物にスポットを当てた自然保護は分かりやすく、一般受けしますが、特定の種の養殖は、河川環境を著しく変化させてしまい、例えば、アユの過激な放流で在来の魚をすっかりなくしてしまうようなこともおこります。

近年、自然再生推進法などの制定によって、まっすぐに整備された川を曲がった川に戻そうとされていますが、ただ曲げればよいというものではありません。建設業の方には、生物のためにも良く、治水にも良い川にするためにはどうすればいいのかをもっと考えて欲しいと思います。



### ポイント

- ・普通のものが普通にいることが大切！
- ・1匹メダカがいるからメダカが帰ってきたというのはおこがましい。100匹いれば、それだけでメダカがいるということ！
- ・自然とは目立たないもの、何も感じないもの！
- ・日本には人工的な自然しかない。技術で自然も作れるし、守れる！ 公共工事の役割



参加者： 会員25名 非会員54名 合計79名

なお、講演会終了後、交流会を行った。(参加者48名)

資料： 当日の配布資料が必要な方は、事務局まで連絡して下さい。

担当： 鈴木 TEL: 03-3872-6064 e-mail: [k.suzuki@kotohcorp.co.jp](mailto:k.suzuki@kotohcorp.co.jp)